根本　裕太

1.著書

2.学術論文

1) 原著論文,責任著者,Kawaguchi M, Sato S, Yamada T, Takeda N, Maruo K, Kitabatake Y, Tsuno K, Narimatsu H, Arao T, NemotoY,2026年03月,英語,Associations Between Neighborhood Environment and Physical Activity among Older Adults with Varying Functional Capabilities: A Cross-Sectional Study in Tsuru City, Japan,査読あり,J Aging Environ,in press,in press,博士学生との共同研究
2) 原著論文,共著者,西脇雅人, 栗原慧, 石田嵩晴, 尾井直矢, 安井拓海, 久米大祐, 丸藤祐子, 根本裕太, 菊賀信雅,2026年02月,日本語,ボディメンテナンス・プログラムが動脈スティフネスに及ぼす影響,査読あり,体力科学,印刷中,印刷中
3) 原著論文,責任著者,Karasawa S, Yamada T, Ueda T, Tanaka M, Ishizuka R, Sato S, Takeda N, Maruo K, Kitabatake Y, Arao T, Nemoto Y,2025年12月,英語,Socioeconomic differences in access to information on health promotion and social activities among community-dwelling older adults: A cross-sectional study,査読あり,J Appl Gerontol,in press,in press,10.1177/07334648251412940,修士学生との共同研究
4) 原著論文,筆頭著者,Sato S*, Nemoto Y*, Takeda N, Yamada T, Nakamura M, Maruo K, Kitabatake Y, AraoT,2026年01月,英語,Associations of physical activity with incidence of and recovery from knee pain among older adults: A 3-year longitudinal study,査読あり,J Aging Phys Act,in press,in press,10.1123/japa.2024-0287
5) 原著論文,責任著者,Manabe T, Nemoto Y, Ueda T, Yamada T, Sato S, Kitabatake Y, Takeda N, Maruo K, Arao T,2025年09月,英語,Association of social network with the incidence of frailty and depression among older adults: a two-year longitudinal study,査読あり,Arch Gerontol Geriatr,137,105945,10.1016/j.archger.2025.105945
6) 原著論文,共著者,Yu R, Duncombe SL, Nemoto Y, Araujo R, Chung HF, Mielke GI,2025年07月,英語,Physical activity across the life course and all-cause and cause-specific mortality in adults: A systematic review and meta-analysis,査読あり,Br J Sport Med,59(17),1228-1241 ,10.1136/bjsports-2024-109122
7) 原著論文,筆頭著者・責任著者,Nemoto Y, Brown WJ, Peeters G, Mielke GI,2025年05月,英語,Reciprocal associations between trajectories of physical activity and physical function among older women: findings from the Australian Longitudinal Study on Women's Health,査読あり,J Gerontol A Biol Sci Med Sci,80(6),glaf059,10.1093/gerona/glaf059

3.その他の著作

4.学会発表等

1) 口頭,筆頭者・責任者,Nemoto Y, Brown WJ, Duncombe SL, Mielke GI,Trajectories of physical activity over 21 years and medication costs for chronic diseases: the Australian Longitudinal Study on Women’s Health,The 36th annual scientific meeting of the Japan Epidemiological Association and the 3rd joint scientific meeting with the International Epidemiological Association Western Pacific Region,2026年01月
2) 口頭,責任者,Vo LY, Yamada T, Sato S, Ueda T, Takeda N, Kitabatake Y, Arao T, Nemoto Y,Trajectories of functional capabilities from ages 65 to 90 vary by sociodemographic factors,The 36th annual scientific meeting of the Japan Epidemiological Association and the 3rd joint scientific meeting with the International Epidemiological Association Western Pacific Region,2026年01月
3) ポスター,共同研究者,真辺智規、藤田幸司、植田拓也、倉岡正高、中本五鈴、谷出敦子、小宮山恵美、柄澤紀花、有田久仁子、大曽根由美、根本裕太、藤原佳典,生活支援コーディネーターと通いの場の関連性：公的統計データを活用した地域相関研究,第14回日本公衆衛生看護学会学術集会,2025年12月
4) 口頭,共同研究者,Brown WJ. Mielke G, Burton NW, Nemoto Y,Does every movement count?,Asia-Pacific Society for Physical Activity 2025 conference,2025年11月
5) 口頭,筆頭者・責任者,Nemoto Y, Otsuka F, Suzuki S, Kataoka S, Nakanishi T, Ueda T, Ogawa S, Karasawa S, Shimaoka M, Narimatsu H, Chung UI,Effects of esports on physical and cognitive functions among older adults: A pilot trial,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月
6) ポスター,共同研究者,植田拓也、藤田幸司、中本五鈴、谷出敦子、大曽根由実、小宮山恵美、真辺智規、森裕樹、有田久仁子、柄澤紀花、根本裕太、秦俊貴、田中元基、倉岡正高、藤原佳典,都内自治体における「多様な通いの場」推進の実施状況及び阻害要因の検討,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月
7) ポスター,共同研究者,中本五鈴、植田拓也、藤田幸司、森裕樹、真辺智規、谷出敦子、大曽根由実、小宮山恵美、松山洸斗、秦俊貴、田中元基、根本裕太、倉岡正高、小林江里香、藤原佳典,通いの場の参加者が担ってもよいと考える役割：担い手を見つけるために,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月
8) ポスター,共同研究者,真辺智規、植田拓也、中本五鈴、藤田幸司、森裕樹、谷出敦子、大曽根由実、小宮山恵美、 松山洸斗、秦俊貴、田中元基、根本裕太、倉岡正高、小林江里香、藤原佳典,通いの場における担い手の役割と健康の包括的評価：「通いの場の担い手調査」【第2報】,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月
9) ポスター,責任者,永田幸子、根本裕太、中本五鈴、植田拓也、藤田幸司、森裕樹、真辺智

規、谷出敦子、大曽根由実、小宮山恵美、松山洸斗、秦俊貴、倉岡正高、小林江里香、藤原佳典,通いの場における地域在住高齢者の役割の種類・多寡と役割負担感との関連,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月,大学院生の永田さんとの共同研究

10）ポスター,共同研究者,森裕樹、中本五鈴、植田拓也、藤田幸司、真辺智規、谷出敦子、大曽根由実、小宮山恵美、松山洸斗、秦俊貴、田中元基、根本裕太、倉岡正高、小林江里香、藤原佳典,通いの場参加者における参加契機及び活動仲間の存在と健康状態との関連,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月

11）ポスター,共同研究者,佐藤慎一郎、根本裕太、山田卓也、武田典子、中村睦美、丸尾和司、小澤初美、北畠義典、荒尾孝,地域在住自立高齢者の膝痛と死亡、要介護、認知症発症との関連：7年間コホート研究,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月

12）ポスター,責任者,天野奥津江、小澤初美、山田卓也、植田拓也、小川将、川口美咲、根本裕太,地域在住後期高齢者における認知症および軽度認知障害の関連要因の検討,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月

13）ポスター,責任者,小澤初美、天野奥津江、山田卓也、植田拓也、佐藤慎一郎、武田典子、北畠義典、荒尾孝、根本裕太,介護予防事業による高齢者の健康行動および健康指標への影響：8年間の縦断調査,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月

14）口頭,共同研究者,山田卓也、根本裕太、植田拓也、佐藤慎一郎、武田典子、小澤初美、北畠義典、福田吉治、荒尾孝,高齢者の健康関心とフレイルの関連における「通いの場」参加の媒介効果の検討,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月

15）ポスター,責任者,Phuong AT, Nemoto Y,Mental Health Trajectories over 21 years in Mid-aged Australian Women,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月,大学院生のTuyetさんとの共同研究

16）口頭,責任者,Aung TO, Sato S, Kitabatake Y, Takeda N, Maruo K, Arao T, Nemoto Y, Does Poor Sleep Increase the Risk of Dementia? A 7-Year Longitudinal Study,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月,大学院生のOoさんとの共同研究

17）口頭,責任者,山本一樹、植田拓也、山田卓也、佐藤慎一郎、北畠義典、武田典子、丸尾和司、荒尾孝、根本裕太,別居親族ならびに友人とのつながりが健康指標に及ぼす影響_x000B_－地域在住高齢者を対象にした縦断研究,第3回ヒューマンサービス学会学術集会,2025年11月,大学院生の山本さんとの共同研究

18）口頭,責任者,柄澤紀花、根本裕太、鎌田真光,ゲーミフィケーション・アプリのインセンティブ導入による歩数分布の変化：集群推定法,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月,大学院生の柄澤さんとの共同研究

19）口頭,責任者,川口美咲、山田卓也、植田拓也、佐藤慎一郎、武田典子、北畠義典、荒尾孝、根本裕太,地域在住高齢者における身体活動量および強度と認知症発症との関連：7年間の縦断研究,第84回日本公衆衛生学会総会,2025年10月,大学院生の川口さんとの共同研究

20）ポスター,責任者,佐藤明音、根本裕太、桜井良太、松永博子、藤原佳典,成人における共食頻度と主食・主菜・副菜のそろう食事頻度との関連：性・年代別の検討,第84回日本公衆

衛生学会総会,2025年10月,大学院生の佐藤さんとの共同研究

21) ポスター,責任者,川口美咲、根本裕太、佐藤慎一郎、山田卓也、武田典子、丸尾和司、北畠義典、荒尾孝,機能的能力の異なる地域在住高齢者における近隣環境と身体活動の関連：横断研究,第26回日本運動疫学会学術総会,2025年07月,大学院生の川口さんとの共同研究

22) 口頭,責任者,柄澤紀花、山田卓也、佐藤慎一郎、植田拓也、武田典子、北畠義典、荒尾孝、根本裕太,地域在住高齢者における身体活動レベル別の生活機能の経年変化パターン：8年間の多時点パネルデータを用いた検討,第26回日本運動疫学会学術総会,2025年07月,大学院生の柄澤さんとの共同研究

23) ポスター,共同研究者,Ishida T, Kurihara K, Oi N, Kume D, Gando Y, Nemoto Y, Kikuga N, Nishiwaki M,Effects of body maintenance device-induced passive light exercise on arterial stiffness and arterial wall tissue elasticity,European College of Sport Science Rimini 2025,2025年07月

24) 口頭,共同研究者,清野諭、植田拓也、根本裕太、森裕樹、谷出敦子、秦俊貴、藤田幸司、小宮山恵美、小林江里香、藤原佳典. ,通いの場参加率における調査方法の差異による系統誤差：東京都内4自治体データからの検討,日本老年社会科学会第67回大会,2025年06月

25) 口頭,筆頭者・責任者,Nemoto Y, Brown WJ, Duncombe SL, Mielke GI,Trajectories of physical activity over 21 years and medication costs for chronic diseases: the Australian Longitudinal Study on Women’s Health,The International Society of Behavioral Nutrition and Physical Activity 2025 conference,2025年06月

26) 口頭,共同研究者,Mielke GI, Duncombe SL, Nemoto Y, Brown WJ,Can physical activity be banked across mid-adulthood for better physical function? Findings from the HABITAT cohort,The International Society of Behavioral Nutrition and Physical Activity 2025 conference,2025年06月

27) ポスター,共同研究者,Yamada T, Nemoto Y, Sato S, Takeda N, Ozawa H, Ishikawa H, Fukuda Y, Kitabatake Y, Arao T,Reliability and validity of the Interest in Health Scale in the community-dwelling older population,World physiotherapy Congress 2025,2025年05月

28) ポスター,共同研究者,Sato S, Nemoto Y, Takeda N, Yamada T, Nakamura M, Maruo K, Ozawa H, Kitabatake Y, Arao T,Associations of Physical Activity with Incidence of and Recovery from Knee Pain among Older Adults: A 3-Year Longitudinal Study,World physiotherapy Congress 2025,2025年05月

5.学会, 協会, 公的団体の委員など

1) BMC Public Health,Editorial board ,2026年2月～

2) 日本体力医学会　男女共同参画推進委員会,副委員長,2023年11月～

3) Journal of Physical Activity and Health,Editorial board ,2023年3月～

4) 日本運動疫学会, 広報委員, 2017年10月～
5) 日本老年社会科学会, 査読委員, 2022年4月～
6) ヒューマンサービス学会　事業部委員会, 副委員長, 2024年8月～

6. 社会貢献
1) 妊産婦の身体活動ガイドライン策定班, 2024年4月～
2) 海外研究機関（クイーンズランド大学・シドニー大学、Radboud大学）との共同研究・学生指導, 2019年7月～
3) 都留市との共同研究事業, 2015年4月～
4) 国内研究機関（東京都健康長寿医療センター、東京医科大学、早稲田大学、明治安田厚生事業団体力医学研究所、筑波大学、帝京大学、工学院大学、埼玉県立大学、人間総合科学大学、東都大学、慶應義塾大学、淑徳大学）との共同研究・学生指導, 2015年4月～

7. 講演, 放送
1) 第32回ヘルスリサーチフォーラム、社会経済的地位が低い高齢者の地域イベント参加を促す情報伝達方策の検討, 2025年12月
2) 第3回ヒューマンサービス学会学術集会、高齢者における複合型eスポーツプログラムの実施可能性と身体・認知機能に対する効果：非無作為化パイロット試験, 2025年11月
3) メディカルフィットネス・フォーラム2025、運動・身体活動の健康効果：ライフコースに基づく最新の知見, 2025年8月
4) 東京都区市町村介護予防事業担当者向け研修（通いの場スキルアップ研修）、通いの場の評価①, 2025年6月
5) 東京都区市町村介護予防事業担当者向け研修（通いの場スキルアップ研修）、通いの場の評価②, 2025年6月
6) 日本老年社会科学会第67回大会、デジタルでつながる健康長寿のまちづくりーゲーム・eスポーツの活用実践と今後ー, 2025年6月

8. 学会等での活動
1) 日本老年社会科学会第67回大会　シンポジスト, 2025年6月
2) 第3回ヒューマンサービス学会学術集会　シンポジスト, 2025年11月

9. 学内教育活動
1)博士前期課程
フィールド調査研究法, 2025年4月～2025年6月
健康教育劇場, 2025年10月～2026年2月

修士学生6名の指導教員,2024年9月～
未病社会のライフデザイン,2025年12月

2)博士前期課程・博士後期課程
Dr. Gregore Iven MielkeとProf. Wendy J Brownの招聘および講演会実施,2025年9月

3)博士後期課程
博士学生1名の指導教員,2025年4月～
社会行動科学特別演習,2025年4月～

10.学内各種委員会活動
1) 研究委員会,2024年4月～
2) 教務委員会,2025年4月～
3) 全学図書委員会,2025年4月～
4) WHOCC会議出席,2025年4月～
5) CIPプロジェクトの研究代表者,2024年4月～

11.科学研究費補助金, その他の補助金などの受託
1) 明治安田厚生事業団,代表者,根本裕太,eスポーツを用いた多因子介入プログラムの普及研究：心身機能低下者ならびに社会経済的地位の低い高齢者を主要ターゲットとした地域介入研究,3,000千円,2025年12月,2028年1月
2) 上原記念生命科学財団, 2023年度研究奨励金,代表者,根本裕太,生活行動データに基づく認知的フレイル予測モデル開発,2,000千円,2024年4月,2026年3月
3) ファイザーヘルスリサーチ振興財団, 第32回ヘルスリサーチ研究に関する研究助成（国内共同研究：39歳以下）,代表者,根本裕太,社会経済的地位が低い高齢者の地域イベント参加を促す情報伝達方策の検討,960千円,2023年12月,2025年11月
4) 国際共同研究加速基金 国際共同研究強化,代表者,根本裕太,高齢期のライフイベント後の身体活動量・座位時間の経年変化の類型と健康リスクの解明,14,690千円,2023年2月,2026年3月
5) 基盤研究（B）,代表者,根本裕太,心身機能低下者の通いの場参加を促し元気高齢者との格差を縮小する包括的支援策の構築,16,900千円,2022年4月,2026年3月

12.学内研究助成金の受託
1) ヘルスイノベーション推進研究費,代表者,根本裕太,健康運動指導士を中核としたeスポーツプログラムの構築と評価：Effectiveness-Implementation Hybrid Designsによる検討,600千円,2025年4月,2026年3月
2) 学長推薦研究費,代表者,根本裕太,地域住民主体のeスポーツプログラムを普及・実装する

上での促進阻害要因：Consolidated Framework for Implementation Researchを用いた検討,500千円,2025年5月,2025年3月

13.受賞

1）神奈川県立保健福祉大学,中村丁次アワード,2026年3月
2）第84回日本公衆衛生学会総会,優秀口演賞,2025年10月,責任者として受賞
3）第84回日本公衆衛生学会総会,優秀論文賞,2025年10月,共同研究者として受賞
4）第26回日本運動疫学会学術総会,優秀演題賞,2025年7月,責任者として受賞
5）The International Society of Behavioral Nutrition and Physical Activity 2025 conference,ISBNPA award nominees,2025年6月

14.特許など

15.その他

1）長野県立大学大学院での講義（応用健康栄養科学演習）
2）他大学の大学院生の研究指導（慶應義塾大学、帝京大学、クイーンズランド大学）